

◆ 論点 1 「取組の方向性」、「目指すべきすがた」について

ご意見をいただきたい事項

- 「取組の方向性」、「目指すべきすがた」について、追加すべき視点はないか。

◆ 論点 2 「取組事例」について

ご意見をいただきたい事項

- 「交通」「環境」「ユニバーサルデザイン」において、交通モード間の連携はどう進展していくか。
- 利用者目線で求められることは何か。
- 新たな技術の活用や先進的な取組事例はないか。

◆ 論点 3 概ね 30 年後の大阪の交通に対する期待について

ご意見をいただきたい事項

- 大阪という都市の特色を活かすアイデア
- 日本を先導する先進的な交通モデル

◆論点1 「取組の方向性」、「目指すべきすがた」について

取組の方向性 1. 「誰もがいつでも快適に移動できる交通」について

◆目指すべきすがた（案）

○移動手段の確保・最適化（多様な交通モードの活用）

新たなモビリティが普及し、安全に利用できるための交通空間に再編されるとともに、MaaS等のシステムにより、すべての人が自分のニーズに合った移動手段を確保できる。

○ユニバーサルデザイン化

様々な交通インフラ施設やそれらをつなぐ「まち」全体のユニバーサルデザイン化を推進し、全ての人々が自由に移動できる。

○移動の利便性向上

交通機関間の乗継が、移動時間や料金も含めて負担なく、全ての人々が迷わずスムーズに移動できる。

取組の方向性 2. 内外からヒト・モノを呼び込む交通について

◆目指すべきすがた（案）

○国際競争力の強化（ヒト・モノを集める）

世界で勝ち抜くための便利な交通システムを構築し、大阪・関西にヒト・モノを呼び込む。

○物流の効率化

サプライチェーンの最適化による効率的な物流を実現。

○都市魅力の創出

まちづくりとも連携し、移動だけでなく都市魅力を生み出す交通へ。

取組の方向性 3. 「安全・安心でグリーンな交通」について

◆目指すべきすがた（案）

○環境に優しい交通

全ての交通機関で脱炭素化が進み、無駄のない効率的な交通・物流システムが構築される。さらに、サプライチェーン全体での脱炭素化により、世界から選ばれる空港、港湾へ。

○交通利用者の安全確保

交通事故が激減し、安全・安心に移動できる。

○インフラ施設の強化・維持管理

激甚化する自然災害や地震に負けず、インフラ老朽化を克服した安全・安心な交通。

◆論点2 「取組事例」について

取組の方向性 1. 「誰もがいつでも快適に移動できる交通」について

◆取組事例（案）

- ・新たなモビリティや新たな交通サービス（シェアリング等）の活用
- ・様々な交通モードの乗換拠点（モビリティ・ハブ）の整備や道路空間の再編
- ・端末交通も含めた移動全体や移動目的（観光、買い物、医療、福祉等）とも連携した拡張型MaaSの活用
- ・自動運転技術やAI技術の活用
- ・移動経路全体で統一したユニバーサルデザイン化や乗換案内
- ・ダイナミックプライシング等の料金施策の検討

取組の方向性 2. 内外からヒト・モノを呼び込む交通について

◆取組事例（案）

- ・空港、港湾における集貨・創貨の取組や施設の機能強化
- ・AI等を活用した物流システムの効率化（物流MaaS等）
- ・自動運転や隊列走行の活用やダイナミックプライシングの導入
- ・ロボットやドローンを使った宅配
- ・インバウンドの受入環境整備
- ・空飛ぶクルマや海上交通、舟運なども活用した旅行者の周遊性向上
- ・交通インフラを活用した景観形成やにぎわい創出(ほこみち、沿川にぎわいづくり等)
- ・移動以外の付加価値の提供（観光、ビジネス向け等）

取組の方向性 3. 「安全・安心でグリーンな交通」について

◆取組事例（案）

- ・道路、空港、港湾での給電環境整備（充電スポット、非接触給電道路等）
- ・交通インフラを活用した次世代エネルギーの自給自足
- ・モーダルシフトの推進
- ・自動運転技術、ビッグデータ、AI技術、ドローンやIoT等の活用
- ・歩行者、自転車優先の道路空間整備
- ・災害時の交通インフラ施設の活用やモード間連携